

#### 1. 概要

- 平成10年8月末洪水及び9月台風5号洪水による甚大な被害が発生した「平成10年災害」から20年が経過しました。
- 「平成10年災害」を忘れてはならない教訓として次世代に語り継ぎ、大規模氾濫時の避難を含めた今後の対応について考えるきっかけづくりを目的として、令和元年8月29日に「福島・二本松地区」の座談会を開催しました。
- これまでに座談会は「伊達地区」、「阿武隈川上流地区」、「郡山・須賀川・本宮地区」、「白河地区」で開催しており、「福島・二本松地区」での開催により全5地区での座談会が完了しました。平成10年災害の教訓を次世代につなぐため、今後、座談会の議事等を取りまとめた冊子を作成する予定です。

#### 2. 開催概要／実施状況

- 日 時：令和元年8月29日(木) 15:50～17:10
- 場 所：福島市飯坂支所 2階 大会議室
- 出席者：福島市長、二本松市長、福島県、福島河川国道事務所長 ほか 計8名
- 参加者：約50名

#### 議事内容

- (1)平成10年災害の振り返り
- (2)平成の大改修をはじめとした平成10年災害後の取り組み
- (3)これからの阿武隈川を考える

※別途、議事録を公表する予定です。

#### 3. 主なご意見・コメント等

##### 【木幡浩 福島市長】

- ・次の100年がただの時間の経過とならないよう、様々な面で一段上の新しいステージに移らなければならない。
- ・九州での豪雨のようにこれまでの100年の豪雨と大きく変わってきている。その対応のためには予防保全が重要。
- ・荒川の破堤や昨今の樹木繁茂・土砂堆積などを踏まえると、ハザードマップなどのシミュレーションだけではなく、河道内の管理も重要ではないか。

##### 【三保恵一 二本松市長】

- ・ハード・ソフト対策により阿武隈川の安全・安心が高まっている一方、局地的な豪雨発生による内水被害が心配。
- ・災害が起きることを前提に事前防災に取組み、災害に強いまちづくりをしたい。
- ・川沿いはサイクリングやウォーキングで活用されており、市民には健康増進と共に川に親んでもらいたい。

##### 【その他】

- ・自分に被害が無ければ災害に無関心なのが一番怖い。
- ・防災フィールドワークを実施して地域の危ない箇所を地図にまとめる活動を毎年実施している。
- ・過去の大水害を知らない消防団員が増えてきたので、ハザードマップも活用しながら水害の歴史やリスクを伝えていきたい。
- ・川を活用し、歩いて楽しいまちづくりをしてほしい。



座談会の様子



会場全体の様子



福島市 木幡市長



二本松市 三保市長



福島県 安田 県北建設事務所長



福島市 加藤 消防団 元第4方面隊長



福島市 二瓶 南町 町内会長



二本松市 野地 消防団 副団長



二本松市 佐久間 消防団 安達地区隊長



小浪 福島河川国道事務所長